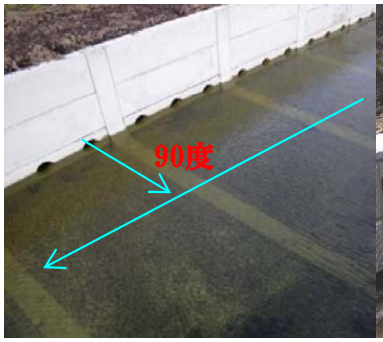
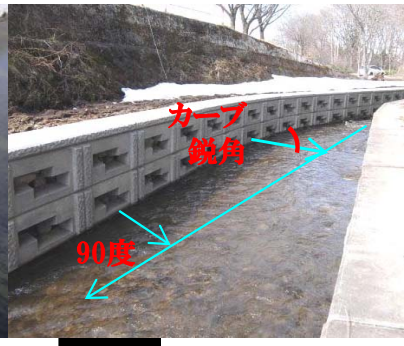
提案2

水中生物から見て優しい護岸作りを廃塩ビパイプを巣孔保護材に再利用することでCo2も同時に削減する

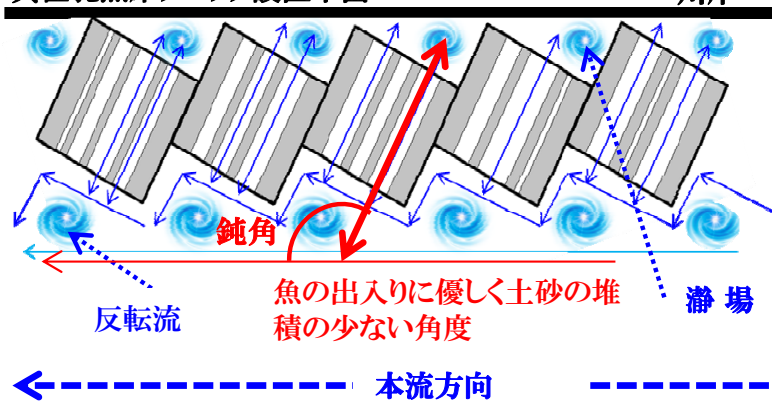
A) 魚床が水流に対して**直角**または**鋭角**に配置されるため水中生物によっては本流に出難い。
B) 急な増水時に逃げ込み難く、流れの変化による**休息域**が作れない。
C) **一定の大きさの孔**では多種の水中生物や成長過程で居着きし難い。
D) 本流に対して**90度以内**の孔は異物が引っ掛かり易く護岸の損傷につながる。
E) 孔の高さが一定ヵ所の場合**土砂などの堆積**で利用不可になる。

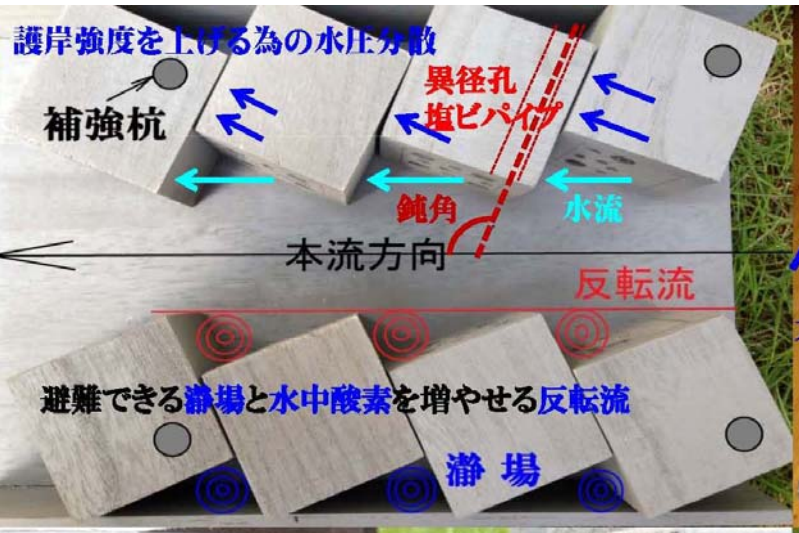


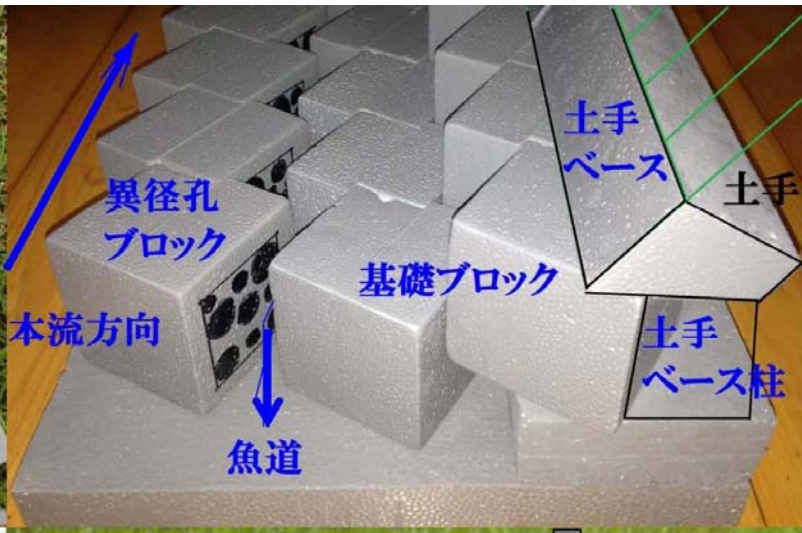


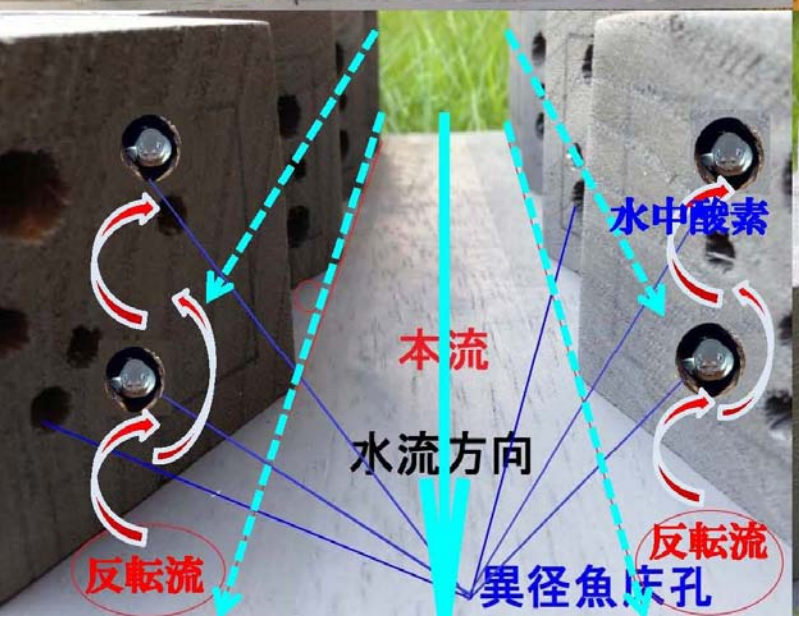
A) 水中生物の繁殖環境を改善させる為、魚床ブロックの設置角度を**鈍角**にして巣穴へ流出物がぶつかる事で起こる護岸の損傷や魚巣への土砂の堆積率を減らす。
B) 避難できる**トロ場**と**水中酸素**を増やせる**反転流**を作る。
C) **異径の巣穴**を作る事で魚巣の大きさを変え、多様な生物の居着き率を高める。
D) 巣穴形状確保に廃塩ビパイプを使い埋めころすことで、コンクリート孔内側の水流による損傷から**保護**する。
E) 同時に廃塩ビパイプのマテリアルリサイクル時の各工程から排出される**温室効果ガスも削減**する。

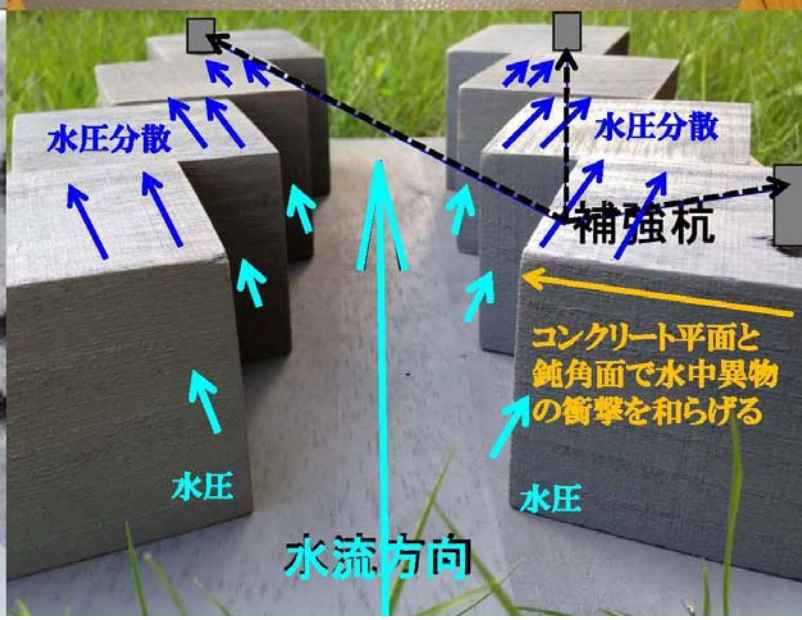
異径孔魚床ブロック設置平面　　川岸











温室効果ガスを削減させる護岸強化で
異常気象を減らし災害確率を減らす

塩ビパイプ種別選別

粉砕投入寸法切断

粉　砕

造　粒

成　形

試　験

出　荷

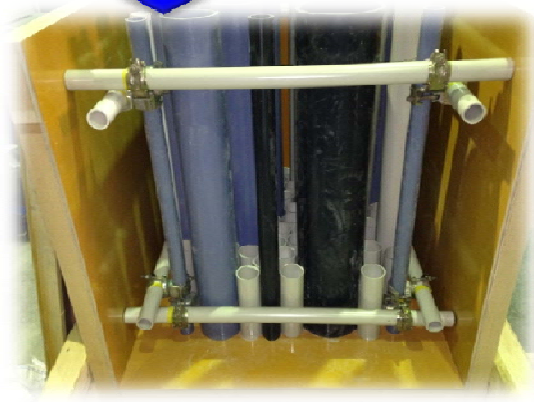
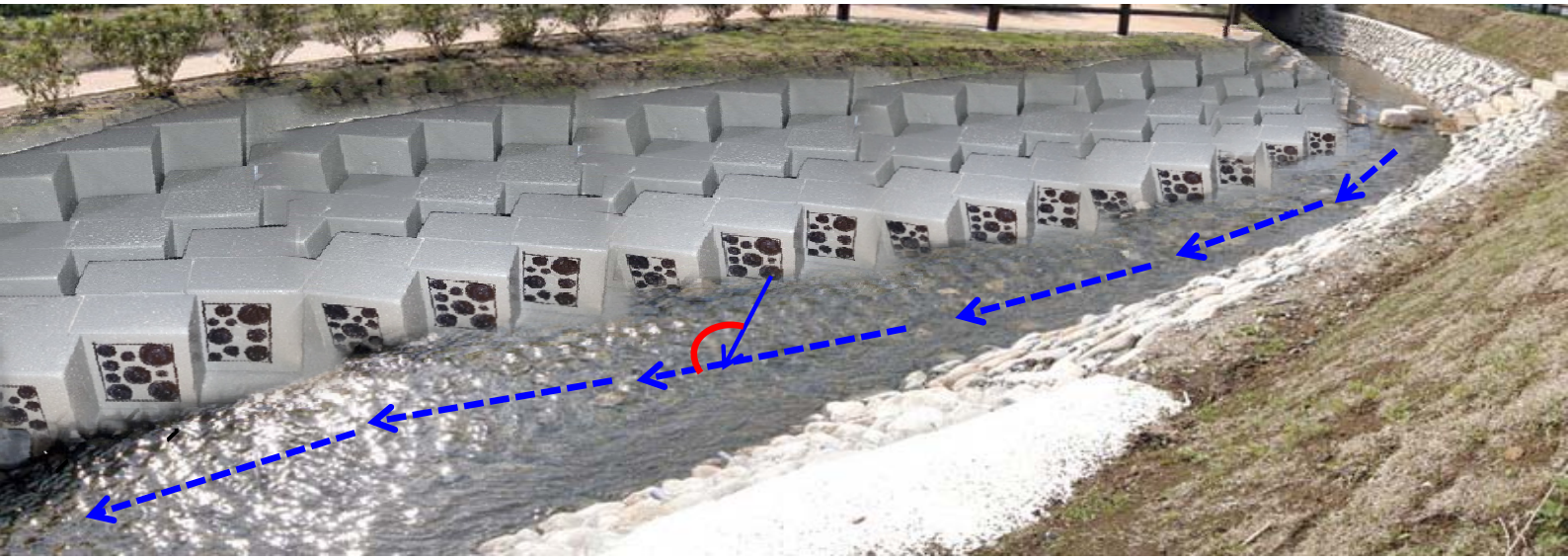
不要な工程

用途変更リサイクル（全リサイクル中の約40％）
リサイクル工程を約80%不要にする

不要なリサイクル工程を無くす事で
経費削減と温室効果ガス削減

採寸切断

出荷

年間18,000tのリサイクルの内、約40％の7,200tの温室効果ガス削減
7,200t/0.06t＝年間120,000個分（約66Km分）魚床ブロック生産可能

1魚床ブロック内の塩ビパイプ重量0.06t